



学校だより



令和7年1月31日
江戸川区立新田小学校
第10号

【理解教育】

校長 鈴木 剛司

家の前にあるロウ梅が咲き、素敵な香りを届けてくれています。まだまだ寒さが厳しい中、少しずつですが、春の訪れを感じています。

先日は、今年度最後の学校公開を実施しました。お忙しい中、たくさんの方に参観していただき、誠にありがとうございました。

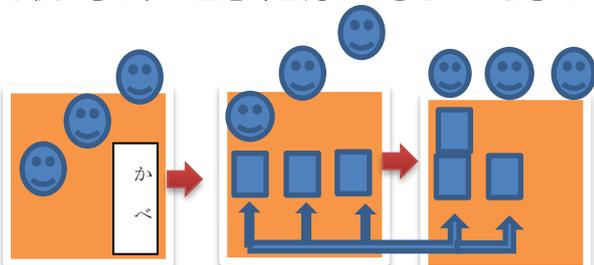
ポर्टフォリオ発表会は昨年度までは体育で行っていましたが、今年度は子供たちが自分たちの成長を具体的に振り返る手段として、様々な活動で取り入れました。多くの方に見ていただき、子供たちの励みになったことと思います。

1年生では、発達障害（神経発達症とも呼ばれています。）理解教育の授業と保護者懇談会を行いました。発達障害という言葉は耳にしたことがあっても詳しくは知らないという方も多いと思います。簡単に説明をすると「生まれつきの脳機能の発達のアンバランスさによって、社会生活に困難が発生する障害（神経発達症）」のことです。（様々な説明があると思います。）クラスの中に6%～8%の児童がそうした困難を抱えているとのデータもあります。発達障害は、ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如、多動症）、LD（学習障害）等で分類されることが多いです。それぞれの困難さとして「集中できない」「相手の気持ちが想像できない」「じっとしてられない」「こだわりがとても強い」「感情をコントロールできない」「文字が読めるのに書けない」「計算だけできない」「ある感覚がとても過敏である」など、様々なことで社会生活や友達との関わり等において困難をきたしています。発達障害の難しさは、見た目には分かりにくかったり、努力が足りないと思われたりするなど、周囲の理解が得られにくいことだと言われています。今回の1年生の授業では、『おこりんぼう』を使って感情のコントロールが苦手な子について考えました。子供たちからは、最初

「自分には『おこりんぼう』はない」という言葉も聞かれましたが、授業を進める中で「みんなの中には様々な『おこりんぼう』がいて、それをコントロールするのも得意、不得意がある」という話になりました。また、『おこりんぼう』が大きかったり、コントロールするのが苦手だったりする子には、どんな助けができるかも考えました。「優しく教える」「そっとしておく」など子供たちは、一生懸命自分ができることを考えてくれました。



みんなの中のそれぞれの『おこりんぼう』



野球をみんなが見るために青い箱（助け）をどう与えたらよいか考えました。（必要な子への必要な支援）

その後、左の絵を使って合理的配慮についても考えました。子供たちは絵を見ると「背の小さい子が『おこりんぼう』が大きいのだと同じだね」「みんなが見えるように台（助け）が必要だね」と、必ずみんなに同じ台（助け）が必要ではないという考えも伝えてくれました。とても難しいことではありますが、こうした理解教育は、発達障害だけでなく、様々なことで必要だと考えています。共生社会を目指す上で今後も定期的子供たちと考えていきたいです。

保護者の方との懇談会では、お子様が発達障害（神経発達症）と診断され、様々なことを勉強し、取り組んでいる保護者の方から、お話も伺うことができました。参加していただいた方から「とても分かり易くてもっと知らないといけないと思いました。」「家に帰って子供と神経発達症について話し合いました。」「子供たちがしっかり考えていてびっくりしました。」などの感想をいただきました。今後もみんなが個性を認め合える学校を目指して取り組んでいきたいです。